

鹿児島市の魅力を全国に紹介し、本市のより一層のイメージアップを図るため設置している「鹿児島市ふるさと大使」。今回は、第15回農林水産省料理人顕彰制度「料理マスターズ」シルバー賞を受賞された上柿元勝さんからみなさんにメッセージをいただきました。

(1) 食文化の発展や食を通じた地域おこし、人材育成など、今後の活動の展望

この度、農林水産大臣より「料理マスターズ シルバー賞」を、頂いたのは生産者やお客様そして山形屋のスタッフのおかげです。ありがとうございます。

鹿児島は食材の宝庫です。特に和牛は22年度、日本一に輝きました。畜産を初め、魚介類、お茶、野菜類、柑橘類とたくさんの種類があります。ひとつひとつに愛情をかけて育んだ物は「本物」です。

全国でのグルメフェアや料理教室で使用し、メディアに発信しています。松元のお茶、霧島サーモンや指宿地区の豆類は最高です。次の世代を育成し、今まで以上に地域活性化は重要だと思います。

(2) 鹿児島市の食のイベントや母校での料理教室など、地域活動への思い

先日11月10日、まるっとマルシェまつもとで松元支所と一緒に地元野菜と鶏肉の元気スープを作りました。約1,000名分です。

小雨まじりの天候でしたが好評でした。前日の仕込みは地元の食改善グループの皆さん10名と一緒に野菜の下処理など手伝って頂きました。ほんとに助かりました。地元の皆さんと協力し、来場者がよろこんでくれました。コロナ前は市内の小学校で食育の授業をいたしました。子供達に「食べることは生きること」と伝え、生産者や家族や地域への感謝が大切だと話しました。

(3) 後進を育成する上で心掛けていることやこれからの未来を担う若い世代に期待すること

まだ私は料理人として54年しか働いていません。

ル・ドームの鹿島シェフをはじめ、国内や世界的な料理コンクールにおいて、優勝者を5人育てました。自分自身が毎日修業だと思っています。たくさん働いた仲間は全国にいますが、私の愛弟子は数少ないです。人間性、技術、精神面を含めて。人を育てることは、自分自身を磨くことが大切だと思います。相手の短所を見ず、長所を見つけ、育てています。そして何事も自ら率先して働くこと。すべての方への感謝の気持ちを持ち続けることだと思います。

自分の夢に向かって努力し、失敗しても強い情熱を持ち続け、今日があるから、明日があるので、今を大切にすること。

(4) 鹿児島市民へメッセージ

鹿児島はすばらしい街です。人情が厚く思いやりがあり、住みやすい街だと思います。少し平和ボケ（失礼）した感じもします。「泣こかい、飛ぼかい、泣こよっかひっ飛べ」で夢に向かって少々「ポケモン」がいてもいいのにと 생각합니다。常に「かごつま弁」を忘れないでほしいです。自分を信じて、夢を実現するため熱い情熱と信念、そして長い努力が必要です。

自分より他人の喜ぶことをしましょう。

チェストー。

フランス料理人 上柿元 勝